

1. 研究活動

論文 偶然の出会いについて スピノザの政治的存在論にふれて	2009. 10. 22	唯物論研究協会 唯物論研究年誌 14号、249-262頁	20世紀におけるフランス語圏のスピノザ主義を偶然的な出会いの概念から論じた。具体的にはドゥルーズ、アルチュセール、ネグリのスピノザ論を取り上げた。
論文 人間的生と音楽 音楽療法における人文主義的傾向を手がかりに	2010. 2. 1	名古屋哲学研究会 哲学と現代 25号、42-60頁	2009年4月26日に行われた名古屋哲学研究会主催のシンポジウム『『人文学』の現在』への報告。人文学の意味を音楽療法を通じて論じた。
論文 ヘルダーリンの思想形成とスピノザ受容	2010. 2. 10	中部哲学会 中部哲学会年報 41号、37-49頁	ヘルダーリンの哲学的思想形成にとってスピノザ受容が重要な意味を有したことを論じた。また、ヘルダーリンのスピノザ主義は合一哲学の構想として成立する。これをシェリングのスピノザ主義と比較した。
翻訳 クラウス・フィーヴェーク「現れとファンタジー ビュロニズムとヘーゲルの想像力論	2010. 2. 1	名古屋哲学研究会 哲学と現代 25号、61-76頁	ヘーゲル美学とピュロンの懐疑主義との関係を論じている。
翻訳 アンネマリー・ゲートマン・ジーフェルト「ヘーゲルの『美学あるいは芸術の哲学』」	2010. 2. 1	名古屋哲学研究会 哲学と現代 25号、77-101頁	従来ヘーゲル美学の底本であったホト編集の美学講義の問題を指摘し、あらためて講義筆録を検討する意義を指摘したものを。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

授業科目 倫理学		
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
内容的には倫理学的問題を理解するために、社会的現実を理解する必要性を強調し、情報、貧困、平和問題などを取り扱った。	資料としては時々の新聞記事、データ、書籍を適宜用いた。	
授業科目 哲学		
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
哲学を時代のコンテクストの中で理解するとともに、それが今日における人間にとっても重要な施策の対象となる点を明らかにした。	パスカル、ニーチェを中心にその時代と思想を明らかにした。	
授業科目 音楽療法概論		
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
概論として音楽療法の理論的パラダイムと解説し、あらたな音楽療法の傾向をも講義した。	音楽療法の定義、主要なパラダイム、新たな潮流についてできるかぎり理解可能なように講義するように努めた。	
授業科目 教養講座（人間）		
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		

工夫の概要	教材・資料等の概要	
哲学テキストを読む訓練を行うように努めた。	カントの『判断力批判』とヘーゲルの『美学』を材料として、哲学的・美学的思索の訓練を行った。	
授業科目 教養講座 (人間)		
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
多くの講師に依頼し、多面的な側面から芸術と現代文化についてアプローチした。		

### 3. 学会等および社会における主な活動

日本哲学会		会員
中部哲学会		会員
日本ヘーゲル学会		会員
日本フィヒテ協会		会員
唯物論研究協会		会員
名古屋哲学研究会		機関誌編集委員長